

(様式第 10)

佐大医経第 141 号  
平成 28 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

佐賀大学医学部附属病院

病院長 山下 秀一

佐賀大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 8 4 0 - 8 5 0 2 佐賀市本庄町 1
氏 名	国立大学法人佐賀大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

佐賀大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒 8 4 9 - 8 5 0 1 佐賀市鍋島 5 - 1 - 1	電話(0 9 5 2)3 1 - 6 5 1 1
-----------------------------------	--------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 循環器内科 3 消化器内科 4 肝臓・糖尿病・内分泌内科 5 血液・腫瘍内科 6 神経内科 7 腎臓内科 8 緩和ケア内科 9 リウマチ科 10 11	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1 呼吸器外科    2 心臓血管外科    3 消化器外科    4 形成外科    5    6	
7                    8                    9                    10                    11                    12                    13	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科    ⑦産婦人科
8産科    9婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    ⑫放射線科    13放射線診断科
14放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 歯科口腔外科    2                    3                    4                    5                    6                    7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科    2 病理診断科    3                    4                    5                    6                    7
8                    9                    10                    11                    12                    13                    14
15                    16                    17                    18                    19                    20                    21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
24床	0床	0床	0床	580床	604床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	295人	184人	372.1人	看護補助者	50人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	9人	3人	9.9人	理学療法士	13人	臨床検査技師	39人
薬 剤 師	40人	0人	40.0人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	3人	その他	0人
助 産 師	17人	1人	17.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	679人	19人	693.1人	臨床工学士	12人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	34人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	1人	事務職員	213人
管理栄養士	10人	0人	10.0人	診療放射線技師	31人	その他の職員	17人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	20人	眼科専門医	5人
外科専門医	21人	耳鼻咽喉科専門医	5人
精神科専門医	4人	放射線科専門医	12人
小児科専門医	10人	脳神経外科専門医	8人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	11人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	11人
産婦人科専門医	8人	救急科専門医	9人
		合 計	136人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 山 下 秀 一 ) 任命年月日 平成28年 4月 1日

平成27年7月16日～平成28年4月1日 医療の質向上委員会委員長  
 平成28年4月1日～平成28年9月7日 医療安全管理委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	459.2人	9.2人	468.4人
1日当たり平均外来患者数	903.3人	42.3人	945.6人
1日当たり平均調剤数	766.2剤		
必要医師数	103人		
必要歯科医師数	3人		
必要薬剤師数	10人		
必要(准)看護師数	268人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	16床	心電計	(有)・無
集中治療室	m <sup>2</sup> 311.14	鉄筋コンクリート	人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
			病床数	4床		
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 58.81m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 13台					
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 38.0m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 共用なし					
化学検査室	261m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	自動血液分析機、自動生化学分析機			
細菌検査室	81m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	自動塗布装置、自動薬剤感受性検査装置			
病理検査室	214m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	自動包埋装置、クリオスタット			
病理解剖室	53m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	特殊解剖台、特殊型計量測定運搬車			
研究室	3,060m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	顕微鏡、遠心機、培養装置、パソコン			
講義室	1,277m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 8室	収容定員	987人	
図書室	1,061m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 6室	蔵書数	117,800冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成 年 月 日～平成 年 月 日	
紹介率	83.6%	逆紹介率	81.4%
算出根拠	A：紹介患者の数	10,061人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	11,799人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2,060人	
	D：初診の患者の数	14,483人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
		計画書の提出あり		有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)

3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	計画書の提出あり



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	3人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	3人
実物大臓器モデルによる手術支援	0人
硬膜外自家血注入療法	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。





(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法	0人
ベベルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法	0人
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術	22人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3人	56	ベーチェット病	47人
2	筋萎縮性側索硬化症	12人	57	特発性拡張型心筋症	43人
3	脊髄性筋萎縮症	8人	58	肥大型心筋症	4人
4	原発性側索硬化症	4人	59	拘束型心筋症	1人
5	進行性核上性麻痺	5人	60	再生不良性貧血	31人
6	パーキンソン病	69人	61	自己免疫性溶血性貧血	人
7	大脳皮質基底核変性症	4人	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5人
8	ハンチントン病	1人	63	特発性血小板減少性紫斑病	48人
9	神経有棘赤血球症	人	64	血栓性血小板減少性紫斑病	3人
10	シャルコー-マリー-トウス病	人	65	原発性免疫不全症候群	6人
11	重症筋無力症	47人	66	IgA腎症	18人
12	先天性筋無力症候群	人	67	多発性嚢胞腎	8人
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	46人	68	黄色靱帯骨化症	18人
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	14人	69	後縦靱帯骨化症	22人
15	封入体筋炎	6人	70	広範脊柱管狭窄症	6人
16	クロウ-深瀬症候群	1人	71	特発性大腿骨頭壊死症	92人
17	多系統萎縮症	13人	72	下垂体性ADH分泌異常症	7人
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	20人	73	下垂体性TSH分泌亢進症	人
19	ライソゾーム病	5人	74	下垂体性PRL分泌亢進症	5人
20	副腎白質ジストロフィー	人	75	クッシング病	2人
21	ミトコンドリア病	2人	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	人
22	もやもや病	69人	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	8人
23	プリオン病	2人	78	下垂体前葉機能低下症	37人
24	亜急性硬化性全脳炎	2人	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
25	進行性多巣性白質脳症	人	80	甲状腺ホルモン不応症	人
26	HTLV-1関連脊髄症	11人	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	人
27	特発性基底核石灰化症	人	82	先天性副腎低形成症	人
28	全身性アミロイドーシス	11人	83	アジソン病	人
29	ウルリッヒ病	人	84	サルコイドーシス	46人
30	遠位型ミオパチー	人	85	特発性間質性肺炎	13人
31	ベスレムミオパチー	人	86	肺動脈性肺高血圧症	11人
32	自己食空胞性ミオパチー	人	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	人
33	シュワルツ-ヤンペル症候群	人	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
34	神経線維腫症	6人	89	リンパ脈管筋腫症	人
35	天疱瘡	7人	90	網膜色素変性症	19人
36	表皮水疱症	人	91	バッド・キアリ症候群	2人
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7人	92	特発性門脈圧亢進症	人
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	人	93	原発性胆汁性肝硬変	15人
39	中毒性表皮壊死症	人	94	原発性硬化性胆管炎	人
40	高安動脈炎	23人	95	自己免疫性肝炎	5人
41	巨細胞性動脈炎	人	96	クローン病	62人
42	結節性多発動脈炎	6人	97	潰瘍性大腸炎	176人
43	顕微鏡的多発血管炎	32人	98	好酸球性消化管疾患	人
44	多発血管炎性肉芽腫症	16人	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	人
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9人	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	人
46	悪性関節リウマチ	9人	101	腸管神経節細胞減少症	人
47	バージャー病	9人	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	人
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	人	103	QFC症候群	人
49	全身性エリテマトーデス	224人	104	コストロ症候群	人
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	83人	105	チャージ症候群	人
51	全身性強皮症	66人	106	クリオピリン関連周期熱症候群	人
52	混合性結合組織病	31人	107	全身型若年性特発性関節炎	人
53	シェーグレン症候群	24人	108	TNF受容体関連周期性症候群	人
54	成人スチル病	7人	109	非典型溶血性尿毒症症候群	人
55	再発性多発軟骨炎	6人	110	ブラウ症候群	人

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	人	161	家族性良性慢性天疱瘡	人
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	1人	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	人
113	筋ジストロフィー	1人	163	特発性後天性全身性無汗症	人
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	人	164	眼皮膚白皮症	人
115	遺伝性周期性四肢麻痺	人	165	肥厚性皮膚骨膜炎	人
116	アトピー性脊髄炎	1人	166	弾性線維性仮性黄色腫	人
117	脊髄空洞症	1人	167	マルファン症候群	人
118	脊髄髄膜瘤	人	168	エーラス・ダンロス症候群	人
119	アイザックス症候群	2人	169	メンケス病	人
120	遺伝性ジストニア	人	170	オクシピタル・ホーン症候群	人
121	神経フェリチン症	人	171	ウィルソン病	2人
122	脳表ヘモジデリン沈着症	人	172	低ホスファターゼ症	人
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	人	173	VATER症候群	人
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1人	174	那須・ハコラ病	人
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	人	175	ウィーバー症候群	人
126	ペリー症候群	人	176	コフィン・ローリー症候群	人
127	前頭側頭葉変性症	1人	177	有馬症候群	人
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	人	178	モワット・ウィルソン症候群	人
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	人	179	ウィリアムズ症候群	人
130	先天性無痛無汗症	人	180	ATR-X症候群	人
131	アレキサンダー病	人	181	クルーゾン症候群	人
132	先天性核上性球麻痺	人	182	アペール症候群	人
133	メビウス症候群	人	183	ファイファー症候群	人
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	人	184	アントレー・ピクスラー症候群	人
135	アイカルディ症候群	人	185	コフィン・シリス症候群	人
136	片側巨脳症	人	186	ロスマンド・トムソン症候群	人
137	限局性皮質異形成	人	187	歌舞伎症候群	人
138	神経細胞移動異常症	人	188	多脾症候群	人
139	先天性大脳白質形成不全症	人	189	無脾症候群	人
140	ドラベ症候群	人	190	鯉耳腎症候群	人
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	人	191	ウェルナー症候群	人
142	ミオクロニー欠神てんかん	人	192	コケイン症候群	人
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1人	193	ブラダー・ウィリ症候群	人
144	レノックス・ガストー症候群	人	194	ソトス症候群	人
145	ウエスト症候群	人	195	ヌーナン症候群	人
146	大田原症候群	人	196	ヤング・シンブソン症候群	人
147	早期ミオクロニー脳症	人	197	1p36欠失症候群	人
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	人	198	4p欠失症候群	人
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	人	199	5p欠失症候群	人
150	環状20番染色体症候群	人	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	人
151	ラスムッセン脳炎	人	201	アンジェルマン症候群	人
152	PCDH19関連症候群	人	202	スミス・マギニス症候群	人
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	人	203	22q11.2欠失症候群	人
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	人	204	エマヌエル症候群	人
155	ランドウ・クレフナー症候群	人	205	脆弱X症候群関連疾患	人
156	レット症候群	人	206	脆弱X症候群	人
157	スタージ・ウェーバー症候群	人	207	総動脈幹遺残症	人
158	結節性硬化症	5人	208	修正大血管転位症	人
159	色素性乾皮症	人	209	完全大血管転位症	人
160	先天性魚鱗癬	人	210	単心室症	人

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
211	左心低形成症候群	人	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	人
212	三尖弁閉鎖症	人	260	シトステロール血症	人
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	人	261	タンジール病	人
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	人	262	原発性高カイロミクロン血症	人
215	ファロー四徴症	人	263	脳腫黄色腫症	人
216	両大血管右室起始症	人	264	無βリポタンパク血症	人
217	エプスタイン病	人	265	脂肪萎縮症	人
218	アルポート症候群	人	266	家族性地中海熱	人
219	ギャロウェイ・モフト症候群	人	267	高IgD症候群	人
220	急速進行性糸球体腎炎	人	268	中條・西村症候群	人
221	抗糸球体基底膜腎炎	人	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	人
222	一次性ネフローゼ症候群	11人	270	慢性再発性多発性骨髄炎	人
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	人	271	強直性脊椎炎	2人
224	紫斑病性腎炎	人	272	進行性骨化性線維異形成症	人
225	先天性腎性尿崩症	人	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	人
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	人	274	骨形成不全症	人
227	オスラー病	人	275	タナトフォリック骨異形成症	人
228	閉塞性細気管支炎	人	276	軟骨無形成症	人
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	人	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	人
230	肺胞低換気症候群	人	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	人
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	人	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	人
232	カーニー複合	人	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1人
233	ウォルフラム症候群	人	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	人
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	人	282	先天性赤血球形成異常性貧血	人
235	副甲状腺機能低下症	1人	283	後天性赤芽球癆	人
236	偽性副甲状腺機能低下症	2人	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	人
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	人	285	ファンコニ貧血	人
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2人	286	遺伝性鉄芽球性貧血	人
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	人	287	エプスタイン症候群	人
240	フェニルケトン尿症	人	288	自己免疫性出血病XIII	人
241	高チロシン血症1型	人	289	クロンカイト・カナダ症候群	人
242	高チロシン血症2型	人	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	人
243	高チロシン血症3型	人	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	人
244	メーブルシロップ尿症	人	292	総排泄腔外反症	人
245	プロピオン酸血症	人	293	総排泄腔遺残	人
246	メチルマロン酸血症	人	294	先天性横隔膜ヘルニア	人
247	イソ吉草酸血症	人	295	乳幼児肝巨大血管腫	人
248	グルコーストランスポーター1欠損症	人	296	胆道閉鎖症	人
249	グルタル酸血症1型	人	297	アラジール症候群	人
250	グルタル酸血症2型	人	298	遺伝性膀胱炎	人
251	尿素サイクル異常症	2人	299	嚢胞性線維症	人
252	リジン尿性蛋白不耐症	人	300	IgG4関連疾患	2人
253	先天性葉酸吸収不全	人	301	黄斑ジストロフィー	1人
254	ポルフィリン症	人	302	レーベル遺伝性視神経症	人
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	人	303	アッシャー症候群	人
256	筋型糖原病	人	304	若年発症型両側性感音難聴	人
257	肝型糖原病	人	305	遅発性内リンパ水腫	人
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	人	306	好酸球性副鼻腔炎	1人

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。





(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・歯科外来診療環境体制加算	・呼吸ケアチーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算
・特定機能病院入院基本料	・データ提出加算2
・臨床研修病院入院診療加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・救急医療管理加算	・救命救急入院料4
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料4
・妊産婦緊急搬送入院加算	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・診療録管理体制加算1	・新生児特定集中治療室管理料2
・急性期看護補助体制加算	・小児入院医療管理料2
・看護職員夜間配置加算	・食堂加算
・看護補助加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	・時間内歩行試験
・高度難聴指導管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料2	・神経学的検査
・がん患者指導管理料3	・補聴器適合検査
・外来緩和ケア管理料	・内服・点滴誘発試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・センチネルリンパ節生検1, 2
・外来放射線照射診療料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・ニコチン依存症管理料	・画像診断管理加算2
・地域連携診療計画管理料	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・がん治療連携計画策定料	・CT撮影及びMRI撮影
・がん治療連携管理料	・冠動脈CT撮影加算
・認知症専門診断管理料	・外傷全身CT加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・大腸CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料2	・外来化学療法加算1
・在宅患者訪問看護・指導料	・無菌製剤処理料
・同一建物居住者訪問看護・指導料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・持続血糖測定器加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・がん患者リハビリテーション料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・集団コミュニケーション療法料
・植込型心電図検査	・医療保護入院等診療料

・処置の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	・経皮的動脈遮断術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・ダメージコントロール手術
・一酸化窒素吸入療法	・腹腔鏡下肝切除術
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・歯科技工加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・皮膚悪性黒色腫切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・同種死体腎移植術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・生体腎移植術
・頭蓋骨形成手術(骨移植を伴うものに限る)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・羊膜移植術	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・網膜再建術	・輸血管理料 I
・上顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る)(歯科診療に係るものに限る。)	・自己生体組織接着剤作成術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1,2	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・内視鏡手術用支援機器加算
・経皮的冠動脈形成術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・歯周組織再生誘導手術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・経皮的動脈弁置換術	・麻酔管理料 ( I )
・経皮的中隔心筋焼灼術	・麻酔管理料 ( II )
・ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術	・放射線治療専任加算
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図計摘出術	・外来放射線治療加算
・両心室ペースメーカー移植術、両心室ペースメーカー交換術	・高エネルギー放射線治療
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術	・1回線量増加加算
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・強度変調放射線治療 (IMRT)
・大動脈バルーンパンピング法 (IABP法)	・画像誘導放射線治療 (IGRT)
・補助人工心臓	・体外照射呼吸性移動対策加算
・埋込型補助人工心臓(非拍動流型)	・定位放射線治療





(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・実物大臓器モデルによる手術支援	・
・硬膜外自家血注入療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回開催
剖 検 の 状 況	剖検症例数 35 例 / 剖検率 15.70 %





(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
特発性大腿骨頭壊死症の治療法確立と革新的予防法開発にむけた全国学際研究	多田芳史	膠原病・リウマチ内科	750,000円	補 委 厚生労働科学研究委託費 (難治性疾患克服研究事業・分担)
全身性自己免疫疾患に対する新規B細胞標的療法の開発	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科	1,820,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
新規多発血管炎性肉芽腫症モデルマウスの確立	小野 伸之	膠原病・リウマチ内科	1,950,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
膠原病患者における生活の質向上を目指した効果的な社会的支援の提案	大田 明英	膠原病・リウマチ内科	1,560,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
血漿遊離DNAの出現機序の解析とヒト肺がん細胞転移モデルマウスへの応用	荒金 尚子	呼吸器内科	1,820,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
テーラーメイド治療のための血漿遊離DNAを用いた遺伝子変異モニタリングシステム	中村 朝美	呼吸器内科	1,430,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
非弁膜症性心房細動患者の急性脳梗塞/TIAにおけるリパーロキサザン投与開始時期に関する観察研究	原 英夫	神経内科	356,400円	補 委 公益財団法人 循環器病研究振興財団
本邦独自の多面的脳出血診断法開発のための基盤的研究-脳アミロイド時代への対応-	薬師寺 祐介	神経内科	1,820,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
CML幹細胞化因子の同定とその制御	木村 晋也	血液・腫瘍内科	1,950,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
ATLにおける臨床試験の実施	木村 晋也	血液・腫瘍内科	182,000円	補 委 国立研究開発法人 国立がん研究センター
白血病p53による白血病微小環境の変調	小島 研介	血液・腫瘍内科	1,300,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
MEK阻害剤を用いた移植後GVHDの選択的抑制と感染・腫瘍免疫の温存	進藤 岳郎	血液・腫瘍内科	1,560,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
家庭血圧に基づく高血圧発症・降圧薬反応性を規定する遺伝的要因に関する疫学・介入研究	野出 孝一	循環器内科	100,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金(分担)
メタボリック細胞癌の生存、増殖、分化に対する有棘細胞癌の影響およびその修飾因子の解明	永瀬 浩太郎	皮膚科	1,300,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
HIF-1α依存的脈管新生を介した胃腸腹膜播種形成機序の証明と新規治療法の開発	池田 貯	一般・消化器外科	1,950,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
ミトコンドリアマイトフアン機構の破綻を介した胃癌悪性度亢進の新規メカニズム解明	中村 淳	一般・消化器外科	1,430,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
Warburg効果をターゲットとした新規胃癌薬物療法の基礎的研究	北島 吉彦	一般・消化器外科	1,300,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
新規組織工学によるiPS細胞からの心臓血管臓器再生療法の開発	森田 茂樹	心臓血管外科	4,550,000円	補 委 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒト幹細胞から機能的3次元心筋組織の構築法および移植法の開発	野口 亮	心臓血管外科	3,770,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
ヒト幹細胞由来機能的3次元心筋組織構築法の開発	野口 亮	心臓血管外科	1,430,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
組織工学を用いたiPS細胞由来心筋組織の神経細胞配合による心機能改善効果の検討	迎 洋輔	心臓血管外科	2,080,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
診断群分類包括評価シートを用いた従来手術と新たな低侵襲手術の費用対効果の比較	柚木 純二	心臓血管外科	1,820,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
新規組織工学による次世代型血管外科再生治療法の開発	伊藤 学	心臓血管外科	1,560,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
スーパー抗体酵素による脳腫瘍幹細胞を標的とした革新的治療法の開発	阿部 竜也	脳神経外科	1,690,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多	馬渡 正明	整形外科	100,000円	(補) 厚生労働省科学研究費補助金(分担) 委
骨片の把持機能向上のために表面加工を施した低侵襲骨接合プレートの力学特性	園畑 素樹	整形外科	1,820,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
銀含有ハイドロキシアパタイトコーティングに関する研究	染矢 晋佑	整形外科	780,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
膀胱尿管路上皮癌細胞の生存・増殖・遊走・浸潤における脂肪組織の役割とその制御機構	魚住 二郎	泌尿器科	1,170,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
膀胱癌由来癌幹細胞の生存・増殖・分化・遊走における間質細胞の役割とその制御機構	徳田 雄治	泌尿器科	1,170,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
佐賀県排泄ケアネットの関連施設における調査及び介入研究の実施	野口 満	泌尿器科学	900,000円	(補) 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 委
糖尿病足病変における荷重圧分散を考慮したモジュール化した靴の開発	上村 哲司	形成外科	1,690,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
糖尿病足に対する生体力学に基づいた予防的手術の有効性の検討	菊池 守	形成外科	650,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
血管系IVRにおける適応と治療効果の定量的評価法の確立	安座間 真也	放射線科	1,560,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
うつ病等脳脊髄液の収集とバイオマーカー候補分子の予備的検討	門司 晃	精神医学	1,300,000円	(補) 国立研究開発法人 国立精神・精神医療研究センター 委
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステムに構築に関する研究	門司 晃	精神医学共通	200,000円	(補) 厚生労働省科学研究費補助金(分担) 委
認知症発症リスクバイオマーカーに関する前方視的研究:伊万里市長期縦断疫学研究	川島 敏郎	精神神経科	1,820,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
神経炎症における脳神経血管機構(NVU)の関与に着目したうつ病の病態解明	溝口 義人	精神神経科	1,000,000円	(補) 公益財団法人 先進医薬研究振興財団 委
人工多能性幹細胞を用いたもやもや病の病因病態解析と治療法の開発	松尾 宗明	小児科	1,820,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
生体適合性脂質輸送担体の脳室内投与によるニーマン・ピック病C型治療の最適化	松尾 宗明	小児科	100,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金(分担)
注視点検出技術を活用した発達障がい診断システムの開発	松尾 宗明	小児科	2,600,000円	補 (委)	日本医療研究開発機構(AMED)(分担)
神経皮膚症候群に関する診療科横断的検討による科学的根拠に基づいた診療指針の確立	松尾 宗明	小児科学共通	900,000円	(補 委)	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究	松尾 宗明	小児科学共通	500,000円	(補 委)	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
ゲノムワイド父性ダイノミーの分子病態に関する研究	大塚 泰史	小児科	1,690,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
生理的感覚感度調節に奇与するサイトカインの発見と、その疼痛調節メカニズムの解明	平川 奈緒美	麻酔科蘇生科	1,430,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
緑茶カテキンのがん細胞殺傷のしくみに基づいた新しい子宮頸部病変治療法の開発	横山 正俊	産科婦人科	1,040,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
より安全な硝子体手術を目指した薬剤と器機開発のための包括的研究	江内田 寛	眼科	1,690,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
siRNA・アテロコラーゲン複合体を用いた全く新しい緑内障治療薬の開発	石川 慎一郎	眼科	1,170,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
ラミニン $\gamma$ 2鎖による上皮成長因子受容体活性化とその阻害に関する研究	倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科	1,040,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
胃酸逆流と気道疾患 一動物モデルを用いた検討一	島津 倫太郎	耳鼻咽喉科	1,950,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
舌癌患者に対する間葉系幹細胞を用いた新たな舌再建法の確立	山下 佳雄	歯科口腔外科	910,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
口腔癌の骨浸潤モデルにおけるカテプシンK阻害剤の機能解析	檀上 敦	歯科口腔外科	2,600,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
TRPチャネルを標的とした口腔癌に対する新規診断・治療法の探索	合島 怜央奈	歯科口腔外科	1,430,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
肝・胆道癌の発癌・進展における鉄代謝関連蛋白発現調節機構の病理学的解明	相島 慎一	病理診断科	1,430,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
がん幹細胞化に関与するSphere形成メカニズムを標的とした革新的治療開発	相島 慎一	病理診断科	1,000,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金(分担)
有癌細胞の生存・増殖・浸潤・脂肪滴沈着における脂肪組織の役割とその制御機構	戸田 修二	病理診断科	1,690,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
悪性黒色腫細胞の生存・増殖・遊走・浸潤における脂肪組織の役割とその制御機構の解明	青木 茂久	病理診断科	1,170,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金
コラーゲンピトリゲルの形状加工技術を活用した医療機器試作品の動物実験	青木 茂久	病理診断科	500,000円	(補 委)	国立研究開発法人農業生物資源研究所
骨髄肥満が骨芽細胞-骨細胞分化系列に与える影響とその制御機構の解明	内橋 和芳	病理診断科	1,690,000円	(補 委)	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ペリオスチンのシグナル伝達機構の解明によるアレルギー性炎症に対する治療基盤の構築	太田 昭一郎	検査部	1,690,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
大規模医療情報基盤を利用した敗血症の治療に関する医療経済学的分析と評価	阪本 雄一郎	高度救命救急センター	1,690,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
地域救急医療の質の向上に資する科学的証拠の構築に関する研究	山田 クリス孝介	高度救命救急センター	7,280,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
ストレスケア実施に対する認知変容効果の検討	山田 クリス孝介	高度救命救急センター	1,000,000円	(補) 公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター 委
自己細胞由来人工皮膚グラフトを用いた重症熱傷治療法の開発	小網 博之	高度救命救急センター	1,170,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
時間外一次救急外来の実態調査および診療受け入れ体制の検討	百武 正樹	総合診療科	1,300,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	江口有一郎	肝疾患センター	11,000,000円	(補) 厚生労働省科学研究費補助金(分担) 委
急性感染も含めた肝炎ウイルス感染状況・長期経過と治療導入対策に関する研究	江口有一郎	肝疾患センター	1,000,000円	(補) 厚生労働省科学研究費補助金(分担) 委
HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究	江口有一郎	肝疾患センター	1,000,000円	(補) 厚生労働省科学研究費補助金(分担) 委
研究者と自治体の協働による、がん検診受診率向上等、自分自身で健康を守るための国民の行動変容を促す	江口有一郎	肝疾患センター	500,000円	(補) 厚生労働省科学研究費補助金(分担) 委
小児におけるB型肝炎の水平感染の実態把握とワクチン戦略の再構築に関する研究	江口有一郎	肝疾患センター	200,000円	(補) 厚生労働省科学研究費補助金(分担) 委
非アルコール性脂肪性肝疾患の病態に加齢と動脈硬化が与える影響	江口有一郎	肝疾患センター	1,000,000円	(補) 公益財団法人 大和証券ヘルス財団 委
心拍変動を用いた研修医の自律神経機能・ストレス評価と研修プログラム適正化への応用	吉田 和代	卒後臨床研修センター	1,170,000円	(補) 文部科学省(日本学術振興会) 科学研究費補助金 委

計 71

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	小荒田 秀一	膠原病リウマチ内科	Microgeodic Disease that Can Mimic Rheumatoid Arthritis	Austin Journal of Musculoskeletal Disorders 2:1016,2015
2	小荒田 秀一	膠原病リウマチ内科	Effectiveness of Certolizumab Pegol in Treating Rheumatoid Arthritis Patients with Persistent Inflamed Residual Mono-or Oligosynovitis Resistant to Prior TNF- $\alpha$ Inhibitors.	Case Reports in Rheumatology 348614,2015.
3	末岡(荒金)尚子	呼吸器内科	Monitoring EGFR T790M with plasma DNA from lung cancer patients in a prospective observational study.	Cancer Sci. 2015.
4	末岡(荒金)尚子	呼吸器内科	Evaluation of a cloud-based local-read paradigm for imaging evaluations in oncology clinical trials for lung cancer.	Acta Radiologica Open. 2015.
5	梅口 仁美	呼吸器内科	Usefulness of plasma HGF level for monitoring acquired resistance to EGFR tyrosine kinase inhibitors in non-small cell lung cancer.	Oncol Rep. 2015.
6	高橋浩一郎	呼吸器内科	A case of relapsing polycondritis successfully treated with combination of a glucocorticoid and cyclosporine.	Int J Clin Med. 2015.
7	西田 有毅	血液・腫瘍内科	Preclinical activity of the novel BMI-1 inhibitor PTC-209 in acute myeloid leukemia: implications for leukemia therapy.	Cancer Sci. 106:1705-1713,2015. 2015 Dec
8	横尾 眞子	血液・腫瘍内科	2-Hydroxypropyl- $\beta$ -cyclodextrin Acts as a Novel Anticancer Agent.	PLoS One. 2015. 2015 Nov 4
9	安藤 寿彦	血液・腫瘍内科	Reactivation of resolved infection with the hepatitis B virus immune escape mutant G145R during dasatinib treatment for chronic myeloid leukemia.	Int J Hematol. 2015. 2015 Sep
10	嬉野 博志	血液・腫瘍内科	Rituximab-containing chemotherapy (R-CHOP)-induced Kaposi's sarcoma in an HIV-negative patient with diffuse large B cell lymphoma.	Intern Med. 2015. 2015 Dec 15
11	嬉野 博志	血液・腫瘍内科	Spontaneous regression of methotrexate related lymphoproliferative disorder with T cell large granular lymphocytosis.	Int Med. 2015.
12	田中 淳史	循環器内科	Cardiovascular Disease Modeling Using Patient-Specific Induced Pluripotent Stem Cells.	Int J Mol Sci. 16(8):18894-922, 2015.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
13	田中 淳史	循環器内科	A novel cardioprotective mechanism of exogenous nitric oxide: inhibition of Rho-associated kinase activity.	Hypertens Res. 38(7):461-462,2015.
14	錦戸 利幸	循環器内科	The effects and safety of vildagliptin on cardiac function after acute myocardial infarction.	Int J Cardiol. 188:13-15,2015.
15	尾山 純一	循環器内科	The relationship between neutrophil to lymphocyte ratio, endothelial function, and severity in patients with obstructive sleep apnea.	J Cardiol. 2016 Mar;67(3):295-302.
16	池田 裕次	腎臓内科	Clinicopathological Significance of Urinary N-acetyl-beta-D Glucosaminidase(NAG) in Nephrotic Syndrome.	Enliven: Nephrology and Renal Studies. 1,1:1-3,2015.
17	高島 毅	腎臓内科	Significance of technetium-99m human serum albumin diethylenetriamine pentaacetic acid scintigraphy in patients with nephrotic syndrome.	PLoS One. 10, 4:e0123036,2015.
18	芥川 加代	消化器内科	Risk factors for low response to proton-pump inhibitor treatment in reflux esophagitis and non-erosive reflux disease evaluated by the frequency scale for the symptoms of gastroesophageal reflux	Esophagus. 12:225-232,2015.
19	山口 太輔	消化器内科	Safety and efficacy of botulinum toxin injection therapy for esophageal achalasia in Japan.	J.Clin.Biochem.Nut r. 57:239-243,2015.
20	川久保洋晴	消化器内科	Upper gastrointestinal symptoms are more frequent in female than male young healthy Japanese volunteers as evaluated by questionnaire.	J Neurogastroenterol. Motil. 22:248-253,2016.
21	竹下 枝里	消化器内科	Higher frequency of reflux symptoms and acid-related dyspepsia in females than males regardless of endoscopic esophagitis: cross sectional analysis of 3,505 Japanese subjects undergoing medical health	Digestion. 93:266-271,2016.
22	山内 康平	消化器内科	Effect of additional surgery after noncurative endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer.	Endosc Int Open. 4:E24-E29,2016.
23	岩根 紳治	肝臓・糖尿病・内分泌内科	Impact of Body Weight Reduction via Diet and Exercise on the Anti-Viral Effects of Pegylated Interferon Plus Ribavirin in Chronic Hepatitis C Patients with Insulin Resistance: A Randomized Controlled Pilot	Intern Med. 54:3113-3119,2015.
24	和泉 賢一	肝臓・糖尿病・内分泌内科	Reduced Tyk2 gene expression in $\beta$ -cells due to natural mutation determines susceptibility to virus-induced diabetes.	nature COMMUNICATIONS. Doi:10.1038/ncomms 7748.2015.
25	蒲池紗央里	肝臓・糖尿病・内分泌内科	Sarcopenia is a risk factor for the recurrence of hepatocellular carcinoma after curative treatment.	Hepatol Res 2015 Jul 29. [Epub ahead of print]

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
26	河口 康典	肝臓・糖尿病・内分泌内科	Efficacy and safety of telaprevir, peglated interferon $\alpha$ -2b and ribavirin triple therapy in Japanese patients infected with hepatitis C virus genotype 1b.	Intern Med. 54:2551-2560,2015.
27	松田やよい	肝臓・糖尿病・内分泌内科	Eplerenone improves carotid intima-media thickness (IMT) in patients with primary aldosteronism.	Endocr J. 2015 Dec 25. [Epub ahead of print]
28	大塚 大河	肝臓・糖尿病・内分泌内科	Factors associated with post-progression survival in patients with advanced hepatocellular carcinoma treated with sorafenib.	Diseases. 3:68-77,2015.
29	高橋 宏和	肝臓・糖尿病・内分泌内科	Biphasic effect of alcohol intake on the development of fatty liver disease.	JGastroenterol. PMID:25733100
30	三砂 範幸	皮膚科	Crater/ulcerated form of infundibular squamous cell carcinoma: A possible distinct entity as a malignant (or high-grade) counterpart to keratoacanthoma.	J Dermatol. 42(7):667-673,2015.
31	三砂 範幸	皮膚科	Sebaceous carcinoma in association with actinic keratosis: A report of two cases with an immunohistochemical study.	J Dermatol. 42(6):616-620,2015.
32	成澤 寛	皮膚科	Histogenesis of pure and combined Merkel cell carcinomas: An immunohistochemical study of 14 cases.	J Dermatol. 42(5):445-452,2015.
33	森戸 清人	一般・消化器外科	The value of trefoil factor 3 expression in predicting the long-term outcome and early recurrence of colorectal cancer.	International journal of Oncology. 46(2):563-568,2015.
34	田中 智和	一般・消化器外科	The Apoptotic Effect of HIF-1 $\alpha$ Inhibition Combined with Glucose plus Insulin Treatment on Gastric Cancer under Hypoxic Conditions.	PLoS ONE. 10 9,2015.
35	上田 純二	一般・消化器外科	Short- and long-term results of the Frey procedure for chronic pancreatitis.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 22(3):211-216,2015.
36	能城 浩和	一般・消化器外科	Pure Robotic Surgery for Intraluminally Growing Gastrointestinal Stromal Tumors around the Esophagogastric junction or Pyloric Ring.	Hepatogastroenterology
37	志田 雅明	一般・消化器外科	Impaired mitophagy activates mtROS/HIF-1 $\alpha$ interplay and increases cancer aggressiveness in gastric cancer cells under hypoxia.	International Journal of Oncology
38	久保 洋	一般・消化器外科	Regulation and clinical significance of the hypoxia-induced expression of ANGPTL4 in gastric cancer.	Oncology letters

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
39	伊藤 学	心臓血管外科	Scaffold-Free Tubular Tissues Created by a Bio-3D Printer Undergo Remodeling and Endothelialization when Implanted in Rat Aortae.	PLoS One. 10(9),2015.
40	蒲原 啓司	心臓血管外科	Evaluation of the Optimal Visceral Branch Configuration in Open Thoracoabdominal Aortic Repair by Computed Tomography.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 21(1):59-65,2015.
41	蒲原 啓司	心臓血管外科	Surgical strategy for retrograde type a aortic dissection based on long-term outcomes.	Ann Thorac Surg. 99(5):1610-1615,2015.
42	野口 亮	心臓血管外科	Development of a Three-Dimensional Prevascularized Scaffold-Free Contractile Cardiac Patch for Treating Heart Disease.	The Journal of Heart and Lung Transplantation. 2015.
43	柚木 純二	心臓血管外科	Mid-term results of endovascular treatment with the Gore TAG device for degenerative descending thoracic aortic aneurysms.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 63(1):38-42,2015.
44	増岡 淳	脳神経外科	Outcome of microvascular decompression for trigeminal neuralgia treated with the stitched sling retraction technique.	Neurosurg Rev. 38(2):361-5,2015.
45	江頭 秀一	整形外科	First Clinical Experience With Thermal-Sprayed Silver Oxide-Containing Hydroxyapatite Coating Implant.	J Arthroplasty (15) :01115-8,2015
46	江頭 秀一	整形外科	Silver oxide-containing hydroxyapatite coating supports osteoblast function and enhances implant anchorage strength in rat femur.	J Orthop Res. 39(9):1391-1397,2015.
47	森本 忠嗣	整形外科	Ipsilateral Hip Dysplasia in Patients with Sacral Hemiagenesis:A Report of Two Cases.	Case Reports of Orthopedics Volume. 2015.
48	上野 雅也	整形外科	Comparison between topical and intravenous administration of tranexamic acid in primary total hip arthroplasty.	J Orthop Sci. 2016(1):44-47,2016
49	東武 昇平	泌尿器科	Usefulness of Blocksom vesicostomy in elderly men with chronic urinary retention and severe dementia.	Geriatr Gerontol Int. 15(8):997-1000,2015.
50	魚住 二郎	泌尿器科	Is the eGFR formula adequate for evaluating renal function before chemotherapy in patients with urogenital cancer? A suggestion for clinical application of eGFR formula.	Clin Exp Nephrol. 19:738-745,2015.
51	上村 哲司	形成外科	Humanitarian Cleft Lip/Palate Surgeries in Buddhist Thailand and Neighboring Countries.	The Journal of Craniofacial Surgery. 26(4):1112-1115,2015.



番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
52	上村 哲司	形成外科	Multiple Peripheral Osteomas Related to Frontal Exposure by Bicoronal Incision : Report of Rare Patient	J Craniofacial Surg27:733-734
53	野口 智幸	放射線科	Noninvasive method for mapping CVR in moyamoya disease using ASL-MRI.	Eur J Radiol. 84(6):1137-43,2015.
54	野口 智幸	放射線科	Arterial spin-labeling MR imaging of cerebral hemorrhages.	Neuroradiology. Nov;57(11):1135-44.2015
55	山口 健	放射線科	Intratumoral heterogeneity of the distribution of kinetic parameters in breast cancer: comparison based on the molecular subtypes of invasive breast cancer.	Breast Cancer. 22:496-502,2015.
56	山口 健	放射線科	Diffusion weighted images of metastatic as compared with nonmetastatic axillary lymph nodes in patients with newly diagnosed breast cancer.	J Magn Reson Imaging. 42(3):771-778,2015
57	平地 徹	精神神経科	Mania occurring during systemic lupus erythematosus relapse and its amelioration on clinical and neuroimaging follow-up.	Lupus. 24(9):990-3,2015.
58	立石 洋	精神神経科	Neurocognitive Disorders in Chronic Kidney Disease: A Case Report and Literature Review.	Psychosomatics. 2016 Jan-Feb;57(1):107-12.
59	谷口 一登	小児科	The subcellular distribution of cyclin-D1 and cyclin-D3 within human islet cells varies according to the status of the pancreas donor.	Diabetologia. 58(9):2056-2063,2015.
60	垣内 俊彦	小児科	Henoch-Schönlein purpura with preceding abdominal pain.	Clinical Case Reports. 3:513-514,2015.
61	島津倫太郎	耳鼻咽喉科	Experimental pulmonary fibrosis in rats with chronic gastric acid reflux esophagitis.	Auris Nasus Larynx. 42(5):382-384,2015.
62	小網 博之	高度救命救急センター	Can rotational thromboelastometry predict septic disseminated intravascular coagulation?	Blood Coagul Fibrinolysis. 26(7):778-83,2015.
63	多胡 雅毅	総合診療科	Excessive Sweating is a Predictive Factor for Serious Consequences of Rhabdomyolysis Not Requiring Renal Replacement Therapies on Admission.	Gen Med(General Medicine: Open Access): 3(5),2015.
64	内藤 優香	総合診療科	Extracurricular classes of English for medical purposes promote confidence in undergraduate medical students.	Journal of Medical English Education. 14(3):93-98,2015.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
65	藤原 元嗣	総合診療科	The Symptoms of Gastroesophageal Reflux Disease Correlate with High Body Mass Index, the Aspartate Aminotransferase/Alanine Aminotransferase Ratio and Insulin	Internal Medicine. 54(24):3099-3104,2015.
66	江口 尚子	総合診療科	Clinical course of hepatitis B surface antigen positive subjects following screening: A retrospective observational study from April 2008 to January 2013.	Hepatology Research. 2015,
67	甲斐 敬太	病理部	Granulomatous reaction in hepatic inflammatory angiomyolipoma after chemoembolization and spontaneous rupture.	World J Gastroenterol. 21:9675-82,2015.
68	甲斐 敬太	病理部	Cytokeratin immunohistochemistry improves interobserver variability between unskilled pathologists in the evaluation of tumor budding in T1 colorectal cancer.	Pathol Int. 2016 Feb;66(2):75-82.
69	甲斐 敬太	病理部	Organ-specific concept and controversy for premalignant lesions and carcinogenesis of gallbladder cancer.	Hepatobiliary Surg Nutr. 2016 Feb;5(1):85-7.
70	細矢 和久	薬剤部	Failure mode and effects analysis of medication adherence in patients with chronic myeloid leukemia.	Int. J. Clin. Oncol. 20(6):1203-1210,2015.
71	前田美由紀	薬剤部	Study on Rectal Administration of Azithromycin by Suppository for Pediatric Use.	Int J Clin Pharmacol Ther. 54(4):263-268,2016.
72	福森 則男	地域医療支援センター	Association between hand-grip strength and depressive symptoms: Locomotive Syndrome and Health Outcomes in Aizu Cohort Study (LOHAS).	Age Ageing. 44(4):592-598,2015.
73	錦戸 利幸	先進外傷治療学	High-dose statin therapy with rosuvastatin reduces small dense LDL and MDA-LDL: The Standard versus high-dose therapy with Rosuvastatin for lipid lowering (SARD) trial.	J Cardiol. 2015 Jul 7.[Epub ahead of print];2015.

計 73

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
----	-------	--------	----	-----

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 臨床研究に係る業務、重篤な有害事象及び不具合等に対して研究者等が実施すべき事項に関すること 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の管理について、利益相反の手続きについて 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年24回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 講演「統計解析の準備－教科書には書いてない、データセットの作り方－」 講演「生物統計学について」	



(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 膠原病など特定疾患に対する免疫抑制療法の習得</li><li>・ 早期癌の診断と治療の習得</li><li>・ 大腸内視鏡挿入法の研修</li><li>・ エコーガイド下肝生検</li><li>・ 脳血管内治療実習</li><li>・ マイクロサージャリートレーニング</li><li>・ 関節鏡下手術の習得 等 計62件</li></ul>
---

2 研修の実績

研修医の人数	81.9人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
多田 芳史	膠原病リウマチ内科	科長	31年	
原 英夫	神経内科	科長	33年	
荒金 尚子	呼吸器内科	科長	29年	
木村 晋也	血液・腫瘍内科	科長	30年	
野出 孝一	循環器内科	科長	28年	
池田 裕次	腎臓内科	科長	29年	
藤本 一真	消化器内科	科長	37年	
安西 慶三	肝臓・糖尿病・ 内分泌内科	科長	30年	
成澤 寛	皮膚科	科長	36年	
能城 浩和	一般・消化器外科	科長	31年	
森田 茂樹	心臓血管外科	科長	36年	
阿部 竜也	脳神経外科	科長	26年	
馬渡 正明	整形外科	科長	33年	
野口 満	泌尿器科	科長	29年	
上村 哲司	形成外科	科長	29年	
松尾 宗明	小児科	科長	31年	
横山 正俊	産婦人科	科長	32年	
江内田 寛	眼科	科長	22年	
倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	科長	34年	
山下 佳雄	歯科口腔外科	科長(代行)	24年	
入江 裕之	放射線科	科長	30年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
門司 晃	精神神経科	科長	31年	
坂口 嘉郎	麻酔科蘇生科	科長	29年	
浅見 豊子	リハビリテーション科	科長	32年	
相島 慎一	病理診断科	科長	20年	
阪本 雄一郎	高度救命救急センター	センター長	23年	
山下 秀一	総合診療部	部長	32年	
青木 洋介	感染制御部	部長	32年	
杉岡 隆	地域医療支援学講座 (総合内科部門)	講座主任	26年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 該当なし ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。



## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

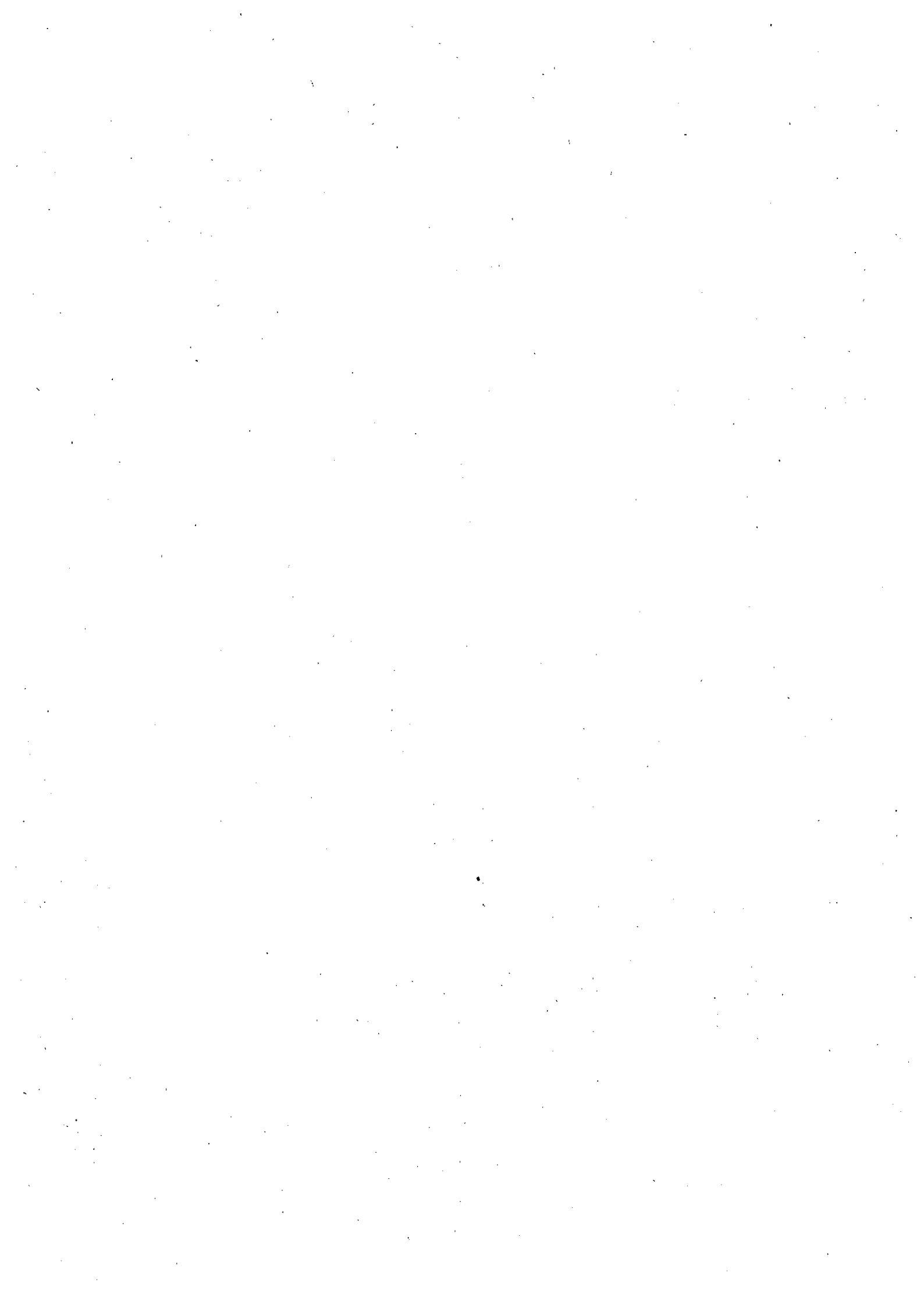
計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 山下 秀一
管理担当者氏名	診療記録センター長：山下 秀一、放射線部長：入江 裕之、 看護部長：藤満 幸子、薬剤部長：成澤 寛、総務課長：占部 健一、 経営管理課長：内藤 浩幸、医事課長：坂井 光太郎

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	掲げる事項 規則第二十二條の三第二項に	病院日誌	経営管理課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療記録センター
		看護記録	看護部
		検査所見記録	診療記録センター
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	診療記録センター
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項 規則第二十二條の三第三	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	-
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	掲げる事項 規則第一條の十一第一項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	経営管理課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	MEセンター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療記録センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録センター
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	臨床研究センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部 MEセンター
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務部総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理室
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。



(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	事務部長 濱野 満夫		
閲覧担当者氏名	医事課長 坂井 光太郎		
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室		
閲覧の手続の概要			
診療情報の提供を受けようとする者（申請者）が、本院の診療情報提供申請書により病院長に申請する。 病院長は該当の診療科長等へ差し支えの有無を照会し、その回答に基づき、可否を決定し、申請者に通知する			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。





(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>第1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方</li> <li>第2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項</li> <li>第3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針</li> <li>第4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>第5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>第6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む。)</li> <li>第7 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>第8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ul> </li> </ul>			
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無 ( 有・無 )</li> <li>・ 開催状況：年12回</li> <li>・ 活動の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。</li> <li>(2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。</li> <li>(3) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。</li> <li>(4) その他医療安全管理に関し必要な事項</li> </ul> </li> </ul>			
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年32回		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：</li> </ul>			
No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数
1	第1回 「インフォームド・コンセントの意義について」 (診療記録センター長 山下 秀一)	平成27年 6月 2日 (30分)	1,426名
2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成27年 6月15日 (30分) 1回目	
3	"	平成27年 6月15日 (30分) 2回目	
4	"	平成27年 6月16日 (30分) 1回目	
5	"	平成27年 6月16日 (30分) 2回目	
6	"	平成27年 6月17日 (30分) 1回目	
7	"	平成27年 6月17日 (30分) 2回目	
8	"	平成27年 6月18日 (30分) 1回目	
9	"	平成27年 6月18日 (30分) 2回目	
10	"	平成27年 6月19日 (30分) 1回目	
11	"	平成27年 6月19日 (30分) 2回目	
—	(本開催研修会の収録ビデオWeb上映)	平成28年 3月 (30分)	

No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数	
12	第2回 「医療事故調査制度: どう活かす? 医療機関として、医療界として」(佐賀県赤 十字血液センター所長 入田和男)	平成27年 9月 1日 (50分)	1,375名	
13	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成27年 9月14日 (50分) 1回目		
14	"	平成27年 9月14日 (50分) 2回目		
15	"	平成27年 9月15日 (50分) 1回目		
16	"	平成27年 9月15日 (50分) 2回目		
17	"	平成27年 9月16日 (50分) 1回目		
18	"	平成27年 9月16日 (50分) 2回目		
19	"	平成27年 9月17日 (50分) 1回目		
20	"	平成27年 9月17日 (50分) 2回目		
21	"	平成27年 9月18日 (50分)		
—	(本開催研修会の収録ビデオWeb上映)	平成28年 3月 (50分)		
22	第3回 「医療事故調査制度の再確認」 (病理部 副部長 甲斐 敬太) 「医療安全と薬 ～薬剤部の取組み～」 (薬剤部 副部長 田崎 正信)	平成27年 12月 1日 (40分)		1,052名
23	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成27年12月17日 (40分) 1回目		
24	"	平成27年12月17日 (40分) 2回目		
25	"	平成27年12月18日 (40分) 1回目		
26	"	平成27年12月18日 (40分) 2回目		
27	"	平成27年12月21日 (40分) 1回目		
28	"	平成27年12月21日 (40分) 2回目		
29	"	平成27年12月22日 (40分) 1回目		
30	"	平成27年12月22日 (40分) 2回目		
31	"	平成27年12月25日 (40分) 1回目		
32	"	平成27年12月25日 (40分) 2回目		
—	(本開催研修会の収録ビデオWeb上映)	平成28年 3月 (40分)		

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

【改善事例】

【問題点の把握方法】

インシデント・アクシデント速報システムによる報告、インシデント・アクシデントレポートは全て医療安全管理室で収集している。

【問題点の分析方法】

集まった事例は、G R Mが影響度を分類のうえサマリ化する。サマリは定例の医療安全カンファレンス、医療安全管理室会議において分析を行う。

【改善策の検討方法】

- (1) 問題発生の事象に関連する部署と医療安全管理室で対応策の検討を行う。
- (2) サマリは、定例の医療安全カンファレンス、医療安全管理室会議において対応策等の検討を行う。
- (3) 医療安全管理委員会において審議する。

【改善事例】

平成27年度

- ・ 平成27年4月 ネーザルハイフロー治療における申し合わせについて
- ・ 平成27年5月 転倒転落安全対策基準の改訂
- ・ 平成27年7月 医師の合併症等報告「医療統計」のシステム運用開始
- ・ 平成27年8月 ハリーコール放送の変更
- ・ 平成27年9月 院内カリウム注射薬のキット製剤への切り替え
- ・ 平成27年12月 医療安全管理マニュアルの改訂
- ・ 平成28年1月 医療安全管理ポケットマニュアルの改訂
- ・ 平成28年3月 救急カート医薬品の見直し



(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無		
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第 1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方          第 2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項          第 3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針          第 4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針          第 5 院内感染発生時の対応に関する基本方針          第 6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針          第 7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>			
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回		
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染の予防に関すること。          (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。          (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。          (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。          (5) 感染制御部の運営に関すること。          (6) その他感染予防及び対策に関すること。</p>			
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 2 回		
<p>・ 研修の主な内容：</p>			
No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数
1	第 1 回 「カテーテル関連血流感染対策」 (感染制御部 副部長 濱田 洋平)	平成 27 年 6 月 2 日 (30 分)	1,426 名
2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成 27 年 6 月 15 日 (30 分) 1 回目	
3	"	平成 27 年 6 月 15 日 (30 分) 2 回目	
4	"	平成 27 年 6 月 16 日 (30 分) 1 回目	
5	"	平成 27 年 6 月 16 日 (30 分) 2 回目	
6	"	平成 27 年 6 月 17 日 (30 分) 1 回目	
7	"	平成 27 年 6 月 17 日 (30 分) 2 回目	
8	"	平成 27 年 6 月 18 日 (30 分) 1 回目	
9	"	平成 27 年 6 月 18 日 (30 分) 2 回目	
10	"	平成 27 年 6 月 19 日 (30 分) 1 回目	
11	"	平成 27 年 6 月 19 日 (30 分) 2 回目	
—	(本開催研修会の収録ビデオWeb上映)	平成 28 年 3 月 (30 分)	
12	第 2 回 「肺炎球菌ワクチンについて」 (感染制御部 浦上 宗治)	平成 27 年 9 月 1 日 (10 分)	

No	研修内容（テーマ・講師）	研修期間	参加人数
13	（本開催研修会の収録ビデオ上映）	平成27年 9月14日（10分）1回目	1,375名
14	”	平成27年 9月14日（10分）2回目	
15	”	平成27年 9月15日（10分）1回目	
16	”	平成27年 9月15日（10分）2回目	
17	”	平成27年 9月16日（10分）1回目	
18	”	平成27年 9月16日（10分）2回目	
19	”	平成27年 9月17日（10分）1回目	
20	”	平成27年 9月17日（10分）2回目	
21	”	平成27年 9月18日（10分）	
—	（本開催研修会の収録ビデオWeb上映）	平成28年 3月 （10分）	
22	第3回 「組織横断的連携による病院感染症マネジメント」（感染制御部 部長 青木 洋介）	平成27年12月1日（20分）	
23	（本開催研修会の収録ビデオ上映）	平成27年12月17日（40分）1回目	
24	”	平成27年12月17日（40分）2回目	
25	”	平成27年12月18日（40分）1回目	
26	”	平成27年12月18日（40分）2回目	
27	”	平成27年12月21日（40分）1回目	
28	”	平成27年12月21日（40分）2回目	
29	”	平成27年12月22日（40分）1回目	
30	”	平成27年12月22日（40分）2回目	
31	”	平成27年12月25日（40分）1回目	
32	”	平成27年12月25日（40分）2回目	
—	（本開催研修会の収録ビデオWeb上映）	平成28年 3月 （40分）	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染症法で届出が必要な場合は、主治医が報告書に記載し、診療科感染対策医、看護師長の確認のもと提出する。  
新規発生MRSAやその他耐性菌については、感染制御部で部署への訪問や治療、及び感染対策の確認を行っている。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無																																										
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年11回																																										
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>研修内容（テーマ・講師）</th> <th>研修期間</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「医療安全と薬 ～薬剤部の取組み～」 （薬剤部 副部長 田崎 正信）</td> <td>平成27年 12月 1日（40分）</td> <td rowspan="11">1,052名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>（本開催研修会の収録ビデオ上映）</td> <td>平成27年12月17日（40分）1回目</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>〃</td> <td>平成27年12月17日（40分）2回目</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>平成27年12月18日（40分）1回目</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>〃</td> <td>平成27年12月18日（40分）2回目</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>〃</td> <td>平成27年12月21日（40分）1回目</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td>平成27年12月21日（40分）2回目</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>〃</td> <td>平成27年12月22日（40分）1回目</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>〃</td> <td>平成27年12月22日（40分）2回目</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>〃</td> <td>平成27年12月25日（40分）1回目</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>〃</td> <td>平成27年12月25日（40分）2回目</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>（本開催研修会の収録ビデオWeb上映）</td> <td>平成28年 3月 （40分）</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		No	研修内容（テーマ・講師）	研修期間	参加人数	1	「医療安全と薬 ～薬剤部の取組み～」 （薬剤部 副部長 田崎 正信）	平成27年 12月 1日（40分）	1,052名	2	（本開催研修会の収録ビデオ上映）	平成27年12月17日（40分）1回目	3	〃	平成27年12月17日（40分）2回目	4	〃	平成27年12月18日（40分）1回目	5	〃	平成27年12月18日（40分）2回目	6	〃	平成27年12月21日（40分）1回目	7	〃	平成27年12月21日（40分）2回目	8	〃	平成27年12月22日（40分）1回目	9	〃	平成27年12月22日（40分）2回目	10	〃	平成27年12月25日（40分）1回目	11	〃	平成27年12月25日（40分）2回目	—	（本開催研修会の収録ビデオWeb上映）	平成28年 3月 （40分）	
No	研修内容（テーマ・講師）	研修期間	参加人数																																								
1	「医療安全と薬 ～薬剤部の取組み～」 （薬剤部 副部長 田崎 正信）	平成27年 12月 1日（40分）	1,052名																																								
2	（本開催研修会の収録ビデオ上映）	平成27年12月17日（40分）1回目																																									
3	〃	平成27年12月17日（40分）2回目																																									
4	〃	平成27年12月18日（40分）1回目																																									
5	〃	平成27年12月18日（40分）2回目																																									
6	〃	平成27年12月21日（40分）1回目																																									
7	〃	平成27年12月21日（40分）2回目																																									
8	〃	平成27年12月22日（40分）1回目																																									
9	〃	平成27年12月22日（40分）2回目																																									
10	〃	平成27年12月25日（40分）1回目																																									
11	〃	平成27年12月25日（40分）2回目																																									
—	（本開催研修会の収録ビデオWeb上映）	平成28年 3月 （40分）																																									
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	<p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医薬品保管証には必要最小限の薬剤である。</li> <li>(2) 医薬品保管証の薬品以外に余剰の薬品はない。</li> <li>(3) 麻薬、覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬は施錠できる場所で区別して保管している。</li> <li>(4) 医薬品の保管場所にきちんと表示がある。</li> <li>(5) 冷所保存の医薬品が整理整頓されている。</li> <li>(6) 緊急の場合以外は、口頭指示だけでなく、指示簿や処方せんで指示を受けている。</li> <li>(7) 内服薬の準備の時には、薬剤を二人でチェックしている。</li> <li>(8) 注射薬調整では、2度以上の薬剤確認を行っている。</li> <li>(9) 点滴投与を開始した後は、点滴ルートから液漏れがないかの確認や、全身状態の確認をしている。</li> <li>(10) 新鮮凍結血漿は常に37℃で溶解し、3時間以内に使用している。</li> </ol>																																										
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>PMDAメーリングリスト登録による医薬品情報入手、日本医療評価機構HPにおける医療事故収集等事業からの情報、厚労省監修Drug Safety Update (DSU) 医薬品安全対策情報</p>																																										

、日本医療機能評価機構の「医療安全情報」などの情報入手とともにメーカーに改定後の添付文書の送付を依頼している。

また、直近のPMDA医療安全情報No. 44「医薬品処方オーダー時の間違い」等は病棟担当者を通じて速やかに病棟へ案内した。その他、DSUも含め「薬剤部からのお知らせ」として小冊子にまとめ月に1回、各病棟、各診療科へ配布している。緊急に通知する必要がある場合は、随時、各病棟、各診療科へ、また、病棟担当薬剤師からも、適宜、情報提供を行っている。

PMDA医療安全情報No44「医薬品処方オーダー時の間違い」や日本医療機能評価機構からの医療安全情報は、医学部5年生教育の教育資材としても活用している。



(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年45回

・ 研修の主な内容：

(医療機器関係)

No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数
1	医療機器導入時、定期研修等 人工心肺装置及び補助循環装置	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日 (うち4日)	777名
2	医療機器導入時、定期研修等 人工呼吸器	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日 (うち5日)	
3	医療機器導入時、定期研修等 血液浄化装置	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日 (うち4日)	
4	医療機器導入時、定期研修等 除細動器	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日 (うち12日)	
5	医療機器導入時、定期研修等 閉鎖式保育器	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日 (うち2日)	
6	医療機器導入時、定期研修等 その他の機器	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日 (うち10日)	

(放射線関係)

No	研修内容 (テーマ・講師)	研修期間	参加人数
1	第70回放射線治療部会 (子宮頸癌腔内照射、画像誘導3次元腔内照射の実施に向けて・中口祐二 大野達也)	平成27年4月13日	2名
2	第20回放射線治療セミナー 基礎コース (熊谷孝三他)	平成27年7月4日～5日	2名
3	2015年度日本放射線治療専門放射線技師認定機構統一講習会 九州1 (吉浦隆雄他)	平成27年8月1日	1名
4	平成27年度放射線安全管理講習会 (原子力規制庁放射線規制室)	平成27年11月24日	1名
5	第5回筑後地区放射線治療座談会 (中口祐二他)	平成27年12月4日	3名
6	第59回放射線治療研究会 (園木一誠他)	平成27年12月5日	4名
7	安全取扱講習会 (ONCOR・中野渡文雄)	平成27年1月21日	7名
8	安全取扱講習会 (マイクロセレクトロンHDR-V2・雀 淳石他)	平成27年3月24日	11名

③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況

- ・ 医療機器に係る計画の策定 (  有・無 )
- ・ 保守点検の主な内容：

(医療機器関係)

点検は、機器の性質や性能などにより細部の点検項目が異なるものの大きく分類すると、外観・機能・性能・電気的安全性点検等から構成され、これらの項目を基に製造業者の取扱説明書及び添付文書に記載されている事項を参考にし、機器毎に保守点検表を作成し点検を行っている。

(放射線関係)

製造業者の点検説明書及び添付文書に基づき、電気的安全性点検、機械的安全性点検、予防的  
点検等、保守点検表を作成し行っている。

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集  
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (  有・無 )
  - ・ その他の改善のための方策の主な内容：
- 【収集方法】

(医療機器関係)

- ・ 学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集等を行っている。
- ・ 各製造業者より安全情報が提供される。
- ・ 医薬品医療機器等安全性情報（厚生労働省ホームページ）及び医療機器関連情報（医薬品医療機器総合機構ホームページ）より情報収集を行っている。

(放射線関係)

- ・ 各製造業者より安全情報が提供される。
- ・ 医薬品医療機器等安全性情報（厚生労働省ホームページ）及び医療機器関連情報（医薬品医療機器総合機構ホームページ）より情報収集を行っている。
- ・ 平成27年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集等を行っている。

【提供・周知方法】

(医療機器関係)

- ・ 製造業者より提供された安全情報を機器に携わる者に関覧させ、保存ファイルしている。
- ・ 院内の各部門へはWebを利用した院内マニュアル統合管理システムでの医療機器の取扱説明書及び添付文書が閲覧及び印刷できる環境を構築している。

(放射線関係)

- ・ 学会等の報告会を行い、周知している。
- ・ 製造業者より提供された情報文書を機器に携わる者へ閲覧させ、保存、ファイルしている。
- ・ 放射線部情報システム（RIS）を使用し、装置マニュアル及び安全管理マニュアルの閲覧ができる。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>配置済（副病院長（安全管理・中期計画担当））。</p> <p>「医療に係る安全管理のための指針」に医療安全管理責任者について明記し、「医療安全管理委員会規程」について、委員長を副病院長として改正した。また、医療安全管理体制図を省令改正に即したものに改正した。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> （ 5名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室という専門の部署を設置し、PMDAからのメール等利用し医薬品に関する安全性情報などについて一括して情報を収集・吟味・整理し、必要な情報を必要なタイミングで現場に周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>これまで実施してきた臨床研究センターを中心に実施予定で準備を進めている。新たな規則の基での事例は未だ発生していない。</p> <p>・担当者の指名の有無 <input checked="" type="checkbox"/>・無</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・規程の主な内容：</p> <p>1. インフォームドコンセントに関する基本指針      2. インフォームドコンセントの成立要件</p> <p>3. インフォームドコンセントの実施</p> <p>（1）医師が実施すべき事項      （2）医師の説明義務      （3）説明時に医療従事者が注意すべき事項</p> <p>（4）診療記録への記載      （5）医療チーム内での情報共有</p> <p>4. 特殊な状況での説明と同意</p> <p>5. 看護師の同席及び記録について（申合せ）</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・活動の主な内容：</p> <p>委員長を含め各診療科から選出された監査担当医による医師の記録の監査を毎月実施している。この監査結果は委員長が病院の定例会議で報告した上で、各診療科にフィードバックをすることで、記載内容の指導を行っている。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属職員：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（１９）名</li> <li>  うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（８）名</li> <li>  うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（１）名</li> <li>  うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（１）名</li> <li>・活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存，その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。</li> <li>(2) 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに，必要な指導を行うこと。</li> <li>(3) 患者や家族への説明など医療事故発生時の対応状況について確認を行うとともに，必要な指導を行うこと。</li> <li>(4) 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに，必要な指導を行うこと。</li> <li>(5) 医療安全に係る連絡調整に関すること。</li> <li>(6) 医療安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。</li> <li>(7) その他医療安全対策の推進に関すること。</li> </ul> </li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">看護師の専従者２名を配置済みである。医師・薬剤師の専任について基準は満たしていないため専任者を配置するよう取り組んでいる。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</li> <li>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）</li> <li>・規程の主な内容： <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 計画書の提出あり </div> </li> <li>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）</li> <li>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）</li> </ul>	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</li> <li>・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</li> <li>・規程の主な内容： <p style="margin-left: 20px;">臨床研究センターでこれまで実施してきた適応外使用などの審査の流れを基本に、評価委員会の委員構成や審査の流れ、現場で手順に従って実施されているかのモニタリングなどの規程について現在規程等を準備中である。</p> </li> </ul>	

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 ( 有・無 )  
 確認手順などは定める予定であるが、未だ実例はない
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 ( 有・無 )

<b>⑨ 監査委員会の設置状況</b>	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 監査委員会の開催状況：年 回</li> <li>・ 活動の主な内容：           <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 60%; text-align: center;">             計画書の提出あり           </div> </li> <li>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( 有・無 )</li> <li>・ 委員名簿の公表の有無 ( 有・無 )</li> <li>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( 有・無 )</li> <li>・ 公表の方法：</li> </ul>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
  3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 195 件（平成 28 年 1 月～8 月）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 205 件（平成 27 年度）
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容  
委員会は、次に掲げる事項を審議する。
  - (1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。
  - (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。
  - (3) 改善策の実施状況の調査及び当該策の見直しに関すること。
  - (4) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。
  - (5) その他医療安全管理に関し必要な事項

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ）・無）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ）・無）
- ・技術的助言の実施状況

計画書の提出あり

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況  
患者からの相談に応じる「医療相談窓口」を設置し対応している。手順等については、「医療相談室内規」に規定している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況  
平成 28 年 9 月に開催した医療安全・院内感染対策に関する研修会において、「特定機能病院の承認要件の見直しについて」をテーマとして職員に周知した。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修  
の実施状況

・研修の実施状況

計画書の提出あり





(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	① 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 主たる機能：一般病院 2 3rdG ver. 1.1 副機能：精神科病院 3rdG, ver. 1.1 認定期間 2016年5月6日～2021年5月5日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	① 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 本院ホームページへの掲載，病院広報誌，新聞・テレビ報道 等。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	① 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 以下の横断的診療班（室）を設置している。 ・褥瘡対策班      ・緩和ケア診療班      ・栄養サポート班      ・輸血療法室 ・臨床腫瘍班      ・脳卒中診療班      ・外来化学療法室      ・口腔ケアサポート班 ・呼吸サポート班      ・糖尿病診療班	

